

進行シート案とは、ワークショップの流れを示したものです。今年度はワークショップの内容について、派遣先の先生と相談のうえ、確定させていただきます。

作成日： 2021年 8月 17日

タイトル： Whose lives matter? -そこに愛はあるんか-

ファシリテーター（グループ）： 金山晴紀、袖山緋奈子、西方健人、桜井杏美、南雲結夏(人種差別チーム)

1：本ワークショップの要旨

あなたは黒人差別と聞いて自分事に感じるだろうか？歴史上、これまで黒人への差別は社会の色々な場面で見ることができた。現在でもアメリカでは教育や医療、経済においても明らかな格差が生じている。新型コロナウイルスの問題においても、死亡率は白人よりも黒人の方が約2倍高い。また、白人世帯の平均年収は黒人世帯と比べて約1.7倍高い。このように黒人であることで社会的に不利であったり、差別を受けたりする現実をどう考えればいだろうか。本ワークショップを通して、できるだけ楽しく黒人差別の背景や現状を知ってもらい、命が平等であること、差別の問題が自分たちの問題でもあることを参加者と共に考えていきたい。

【関連するSDGs:10番】

2：本ワークショップの目的(共に考えたいこと、実現したいこと)

はじめに、参加者には黒人の存在や黒人がどのように差別されてきたのか、また黒人差別の現状を知ってもらう。その上で、黒人に対する差別や偏見はどのようなものがあるかを参加者と共に考えていきたい。黒人差別というテーマは、とても深刻な問題であり、慎重に捉える必要があると考える。重いテーマではあるが、参加者には差別や命の大切さについて考えるきっかけになってほしい。また、私たちファシリテーターも、参加者の気づきや考えを受け、今後活かしたい。

3：本トピックをとりあげる理由

黒人が差別されてきた歴史や、今も差別され続ける現状を知り、私たちは衝撃を受けた。近年、Black Lives Matter運動が広がっている。この運動は2020年5月アメリカミネソタ州にてアフリカ系アメリカ人が白人の警官に殺されたことを受け、全米に広がった黒人差別に対する抗議運動である。このように、現在でも黒人に対する差別や偏見が根強く残っている。少しでも多くの人にこの問題を知ってもらい、命の大切さや黒人差別の問題について考えたい。

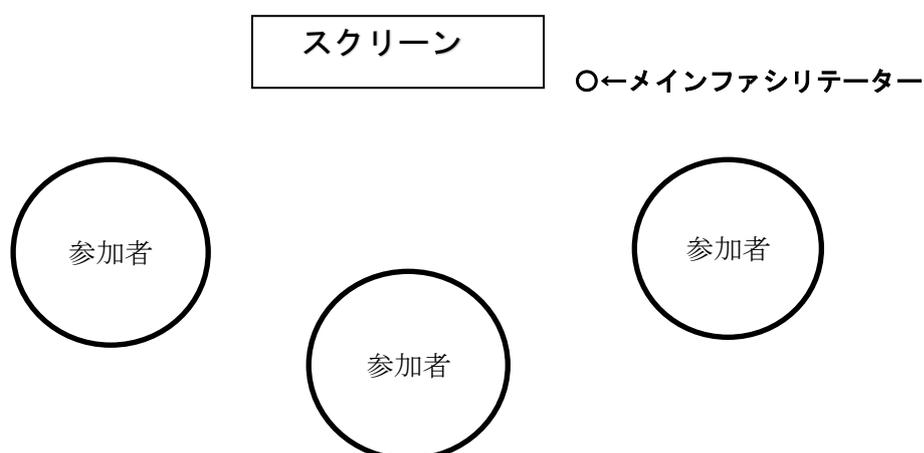
5 : 活動過程 (使用時間 : 90 分 参加人数 : _____)

過程 (所要時間)	活動内容	具体的な発問・説明・動きなど	ねらい	使用する教材・備品	注意事項
導入 : 起 16 分	<p>チームの自己紹介とワークショップの流れ説明 (3分)</p> <p>積み木自己紹介 (5分)</p> <p>7 ゲーム (3分)</p> <p>アメリカといえ ば? (5分)</p>	<p>挨拶→自己紹介→流れ説明 (全体の流れを軽く、目的は話さない)</p> <p>〈各グループ内〉 「名前・何をしているときが一番楽しいか」自己紹介</p> <p>〈各グループ対抗〉 7 の倍数と 7 がつく番号で手をたたくゲームを 70 まで行い、早く終わったチームから着席 (2 回戦行う)</p> <p>〈各グループごと〉 「アメリカといえ…?」を考えてもらう。スポーツ・バスケ・大阪なおみ等、イメージできるものを挙げてもらう (背が高い・怖い・黒人・人種差別とか出るのが理想だが好きに話してもらう)</p>	<p>流れを伝えることで参加意欲を引き立てる 目的はあえて言わない(忸度させない)</p> <p>子どもたちの緊張をほぐす (結のワークを少しイメージしてもらう)</p> <p>対抗戦にすることで参加意欲が湧く 学校で学んでいることを生かす</p> <p>次のワークにつなげる ワークショップのトピックでもある黒人差別はアメリカ中心の問題であるため、最初にアメリカについてのイメージを膨らましておく</p>	<p>模造紙 ポストイット ペン</p>	

<p>発展：転 22分 (22分)</p>	<p>差別について考える (22分)</p>	<p>差別について深く考える。参加者(子どもたち)にあわせて、臨機応変に問いを投げかける 〈自分がされて嫌なことは何?〉〈あなたの身近にある差別は?〉〈差別って何?〉〈差別を克服するための方法は?〉等</p>	<p>「自分がされて嫌なこと」から考えることで「身近な差別→いじめ・悪口」よりも考えやすくする。 少しでも悲しい思いをしている子どもがいるのであれば、この時間を通して何か気づきがあってほしい・逆の立場であれば、悲しい思いにさせていることに気づいてほしい</p>	<p>模造紙 ペン</p>	
<p>まとめ：結 13分</p>	<p>手紙を書く (8分)</p>	<p>心地よい音楽を流しながら、自分への手紙を書く 〈ワークショップを通して学んだこと・感動したこと・知ったこと〉 〈自分への手紙、自分へのプレゼントとなる〉〈個人作業・グループ内でも全体でも共有はしない〉 手紙を書くワークに対してコメントする</p>	<p>ワークショップを自分の中で振り返ってもらい手紙という形に残るものにする ことで、のちにワークショップでの出来事を振り返ってもらえるようにする メインファシが「自分が自分に手紙を書くとするならば」と自分の考えを共有することで、自分たちの想いを知ってもらおう</p>	<p>模造紙 ペン</p>	

	<p>まとめ (5分)</p>	<p>黒人差別を克服するための取り組み（世界で取り組まれていること）を伝える(SDGs等) 今回のワークショップがSDGsの何番に該当していたのか伝える (軽くクイズをする) (あくまで正解はなく、SDGs17のゴールはすべてつながっており、どの分野から取り組んでも解決に一步近づくことを伝える)</p>	<p>SDGsの存在を知ってもらう SDGs17のゴールはすべてつながっており、どの分野から取り組んでも解決に一步近づくことをしてもらう</p>		
--	---------------------	--	--	--	--

6：会場のセッティング



7：使用する教材

パソコン、プロジェクター、スクリーン、バインダー、ストップウォッチ、写真、模造紙、ポストイット、ペン、
「ヘンリー・ブラウンの誕生日」の絵本

8：参考にした資料

【書籍】

- ・ジェームズ・M・バーダマン、森本豊富 訳『アメリカ黒人の歴史』NHK 出版、2011 年
- ・ベンジャミン・クォールズ、明石紀雄 他 訳『アメリカ黒人の歴史』明石出版、1994 年
- ・ジェームズ・M・バーダマン、森本豊富 訳『アメリカ黒人史：奴隷からBLMまで』NHK 出版、2020 年
- ・石出法太、石出みどり『これならわかるアメリカの歴史 Q&A』大月書店、2015 年
- ・山本伸、西垣内磨留美、馬場聡『ブラック・ライブズ・スタディーズ：BLM 運動を知る 15 のクリティカル・エッセイ』三月社、2020 年
- ・エレン・レイヴァイン作、カディール・ネルソン絵、千葉茂樹訳『ヘンリー・ブラウンの誕生日』鈴木出版、2008 年

【インターネット】

- ・日本経済新聞「黒人暴行死が訴える 貧困率 2 倍、格差の現実 黒人暴行死事件の背景を探る（上）」2020 年 6 月 11 日 <<https://www.nikkei.com/article/DGXMZ060150710Z00C20A6I00000/>>
(最終閲覧日 2021 年 8 月 11 日)
- ・ピポラボ「格差社会とは？世界や日本における所得格差など 9 つの「格差」の実情を解説」2020 年 5 月 25 日 <<https://www.cydias.com/peoplelabo/kakusashakai/>>
(最終閲覧日 2021 年 8 月 11 日)

9：その他